

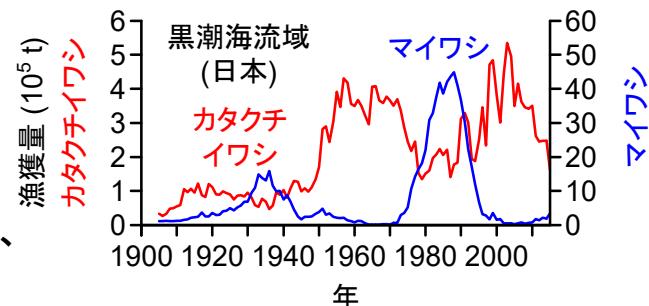
世界各地の海洋生態系において、イワシ・アジ・サバ類のような小型浮魚類は、気候変動に対応して数十年規模の劇的かつ周期的な資源変動を繰り返してきた。最も象徴的な例は、カタクチイワシとマイワシの間で優占魚種が入れ替わる「魚種交替」現象である。しかし、気候変動に伴う環境変動に魚類がどのように反応することで魚種交替に至るかという生物学的メカニズムはわかっていない。このような水産資源変動に纏わる謎に挑戦する。

主要研究テーマ

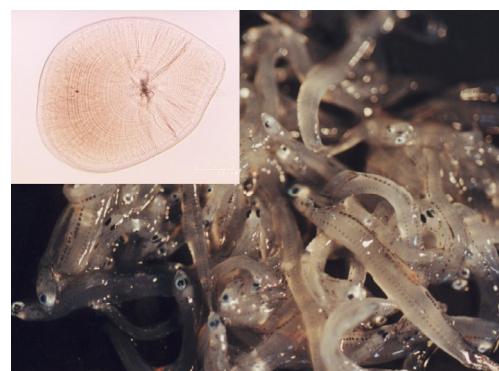
1. 気候変動に伴う水産資源変動の生物学的メカニズム
 - ・環境変動に対して魚がどのように応答することで資源変動が起こるか?
 - ・産卵生態・初期生態特性の魚種間・海域間比較
2. 魚類の初期生活史における成長・生残メカニズム
 - ・どのような成長特性の個体がどのように生き残っていくのか?
 - ・魚類の初期生残戦略の解明
3. 魚類の生活史における密度効果と水産資源管理
 - ・卵生産における密度効果の検証
 - ・産卵数・卵サイズの変動メカニズム

研究方針

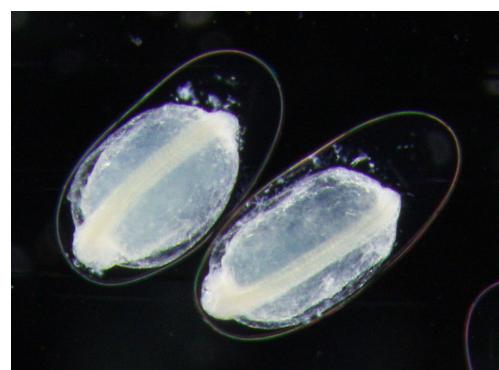
1. 「独創性・新奇性」既存の仮説やパラダイムに対して挑戦的な成果を発信する。
2. 「国際性」国際共同ネットワークを基盤として、分野の最前線を開拓する。
3. 「学際性」異なる専門分野の視点を取り込む。



漁獲量の長期変動に見られる魚種交替



カタクチイワシ仔魚と耳石



カタクチイワシ卵



国際共同研究ネットワーク

